

連合の
新コンセプト

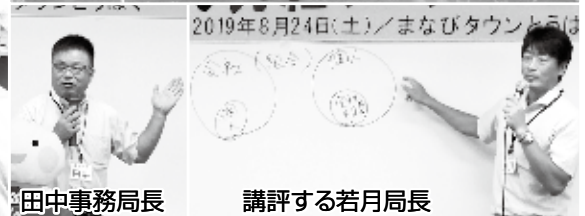
“働くことを軸とする安心社会

2019労組リーダーセミナーで学ぶ

— (労働者を)まもる・(組合員に)つなぐ・(組合員・家族の幸せを)創り出す —



グループワークの様子(写真上/講師 新井相談員)



田中事務局長

講評する若月局長

連合鳥取は「労組リーダーセミナー」を8月24日(土)、まなびタウンとうはく(琴浦町)において開催し、全県の単組より50人が参加しました。このセミナーは毎年、広報教育局が手作りで実施しており、本年は連合鳥取の田中穂事務局長による講演「連合のビジョン」と、日頃、県内の労働者、経営者から労働相談を受けている「みなくる米子」の新井英津子相談員を講師に迎えた講義とグループワークを行い、労働組合役員に連合について改めて考える機会となりました。また、次期衆議院議員選挙に連合鳥取が推薦決定している「湯原俊二さん」もかけつけ、日頃の活動報告や「政治」の大切さを訴えました。

講演「連合のビジョン」

連合鳥取 田中事務局長(抜粋)

連合は結成30年を迎える。改めて「働くこと」に軸を置き、①働く仲間一人ひとりの尊厳と暮らしを「まもる」、②働く仲間・地域社会を「つなぎ」、社会・経済の新たな活力を「創り出し」ていくために、一つ目に働き方の多様性に対応し、二つ目に労働組合の作った「労福協」「労金」「全労済」組織を活用し、三つ目に会社を存続・発展させることが求められている。

講義①

「働きやすい職場にするための労働組合してのかわり方」

講義②・グループワーク

「職場環境の改善に向けて」
 みなくる管理運営
 サブマネージャー兼
 雇用・労働相談員
 キャリアコンサルタント
 新井英津子さん(抜粋)

- ① 仕事の基本は「ほう(報告)・れん(連絡)・そう(相談)」だが、指示を受けた段階で自分勝手に理解せず、確認することも大切。
- ② 相手への気遣いや尊重でコミュニケーションをとって働きやすい職場環境を作ろう!
- ③ 仕事でミスした時の対処方法?
 ・ミスは起こることを前提に。

起こった原因を分析。

・ミスの共有化により職場全体で同じミスをくり返さない仕組みづくりを行うことが大切。

※これらの事を基本に、職場に優秀な人材を定着させることが労働組合の役割である。

講評

広報・教育局 若月局長(抜粋)

労働組合の中で起きる様々な悩みをグループ討議という形で考えた。これという正解はないが、各単組で「どう対応するか」考えていく機会にしてほしい。単組での対応が難しい時は、産別、連合、みなくるに投げかけてほしい。

“みなくる”とは

鳥取県が県内3カ所に設置している労働相談所。現在、鳥取県労働者福祉協議会が県から委託を受け運営している。

開所/平日9:00-17:30

相談方法/電話・窓口・メール

フリーダイヤル0120-451-783(鳥取)
 0120-662-390(倉吉)
 0120-662-396(米子)

※「みなくる」講師派遣事業

社労士・産業カウンセラー・みなくる相談員など、テーマに沿った専門を無料で派遣。

まずは電話でご相談を!

30~60分程度の研修
 原則1事業所年度内1回

連合鳥取2020年度政策・制度要求(30項目)を
 平井鳥取県知事に手交(8月19日(月))

詳しくは別紙を
 ご参照ください

■特集「平和」■

連合鳥取ピースウォーク～子どもたちに核兵器も戦争もない未来を～

東 部 (参加/約150人)
7月25日(木)/さざんか会館

- ◆行進/鳥取駅南口→さざんか会館
- ◆講演
「昭和の戦争と鳥取」
(鳥取市歴史博物館
学芸員 横山展宏さん)
- ・折り鶴作成
- ・アピール採択



講演の様子(写真中段/講師 横山学芸員)

中部(中央)(参加/約90人)
7月24日(水)/エキパル倉吉

- ◆行進/倉吉体育文化会館→JR倉吉駅前
- ◆平和学習
○DVD鑑賞
「9条改憲って何?」+ミニ講演会
(県教組中部支部元支部長
川上慎治さん)
- ・アピール採択



ミニ講演会(写真中段/講師 川上さん)

西 部 (参加/114人)
8月4日(日)/ガイナックスシアター

- テーマ/将来を担う子どもたちとともに考え、行動しよう!
- ◆行進(親子パレード)/米子市文化ホール前広場→JR米子駅前
- ◆平和学習会
○映画鑑賞(親子参加)
「まっ黒なおべんとう」
- ・感想文 ・子ども平和アピール
- ・アピール採択



多くの子ども達が参加

連合「平和行動」に参加

沖縄



広島



長崎



- ◎沖縄/6月23日(日)～24日(月) /参加7人
- ◎広島/8月5日(月)～6日(火) /参加13人
- ◎長崎/8月8日(木)～9日(金) /参加5人

参加者の声

自治労鳥取県職員連合労働組合
西條 由紀さん

初めての参加で、非常に暑い中でのピースウォークだったが、説明があると理解が深まる点、多くの人が同じ場所で学ぶ姿を目の当たりにできた点が自分の中の収穫だった。

戦争や核に関することは、特に自らの目で足で見ることで、体験することが重要だと感じ、政治や行政に関わる人たちはぜひ学んでほしいと思った。

長崎

情報労連NTT労働組合
北村 敬幸さん

平和行動に参加するのは今回が初めてだったが、とても深く考えさせられた。

当時を実体験された方のお話があり、辛さや恐ろしさが伝わってきた。

今回の経験を無駄にせず、今後も積極的に参加していきたい。また、多くの方にも参加していただきたいと感じた。

長崎

全水道鳥取支部
福田 公亮さん

本集会の開催地である長崎市は、一発の原子爆弾が投下されたことにより7万人以上の人命が失われた。

この非人道的な兵器が今では世界中に存在し、人類は核兵器の脅威にさらされている。核兵器廃絶と恒久平和の実現をめざして行動を継続しなくてはならないと、被爆地に臨場し決意を新たにしました。

長崎

全水道鳥取支部
田中 大樹さん

今回、被爆地である長崎を初めて訪問することができ、平和公園等でいろいろな資料を見たり、集会や講演、若い人たちの活動を知ることができ、いい経験となった。

中でも、被爆者の方の話は、聞いていて強く胸を打たれるものがあり、改めて平和や戦争の悲惨さについて考えるきっかけとなった。

長崎

国公総連全農林
山下 清幸さん

長崎に原爆が投下されてから74年が経ち風化が進む中、今回初めて被爆者から直接被爆体験を聞くことができた。

悲惨さに自然と涙がでた。高校生平和大使の「ピリョクだけドムリョクじゃない!」のとおり、微力でも平和の実現をめざすことが大切であると実感した。



No!の声を届けよう! —核兵器廃絶1000万署名スタート—

2020年は5年に1度の国連「核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議」が開催されますが、「核兵器のない世界」への道筋は後退しようとしています。

連合は、原水禁、KAKKINとともに「核兵器廃絶1000万署名」をスタートしています。(組織内は産別で署名活動を展開しています)

連合鳥取では、東部・中部・西部地域協議会を中心に、連合鳥取執行委員会役員も参加し、県内3カ所で街頭署名活動を実施し、県民のみなさんに「核兵器は要らない!No!の声を届けよう!」と訴えました。

[Change.org]での

電子署名にもご協力をお願いします



7月30日(火)/イオジ鳥取店



8月2日(金)/あじそうパール店



7月31日(水)/JR米子駅前

女性組合員同士で交流 —女性委員会「産別交流会」に28人参加—

女性委員会は「産別交流会」を7月27日(土)、県立倉吉体育文化会館において開催し、「苔テラリウム」づくりと「意見交換」を行いました。

○「苔テラリウム」づくり

株式会社遠藤農園オズ・ガーデンの遠藤佳代子さんと小山由香さんを講師に迎え、最近流行している「苔テラリウム」づくりに挑戦しました。

ガラス容器の中に石や炭を敷き、その上に自分好みの苔を詰める作業は、和気あいあいと周囲の人たちと自分の作品の評価をし合い、完成後の小さな苔の森を眺めて癒されました。

○各グループでの意見交換

本題の意見交換では「働き方改革関連法」施行後の職場の実態や取り組み状況について意見交換を行いました。

有給取得したくても職場の人手不足により、自分の希望通りに取れない事が多いという意見や、時短勤務をしているが人手不足で仕事量が多く、時間内に帰れず残業をしている等、産別を問わず人手不足は深刻な問題だと実感しました。



「苔テラリウム」づくりの様子



意見交換の様子

意見交換の時間いっぱいまで仕事の悩み等、普段会話する機会のない産別の方と交流ができた「産別交流会」となりました。

(寄稿/女性委員会副委員長 川口翔子さん)

産別リレー

運輸労連はトラック労働者の雇用を守り、安心して働ける職場づくりをめざします!



運輸労連
におじゃまします

運輸労連はトラック運輸を中心にさまざまな輸送分野で働く仲間が集まった産別別労働組合です。トラック輸送に働く仲間の「ゆとりと豊かさ」を実現するため、雇用を守り、賃金・労働条件を改善して誰もが安心して働ける職場づくりはもとより、事故防止、健康管理など職場環境の改善や労災補償の充実にも取り組んでいます。



適正な運賃・料金收受にご理解・ご協力をお願いします



今回は…情報労連をご紹介します



湯原俊二 — 緑肥の想い —

先般、中東のホルムズ海峡で日本のタンカーが爆破され被害が出ました。犯人等の詳細は不明です。

アメリカのトランプ大統領は、自国のタンカーは自国で守るべきだとして、有志連合をつくるために、日本に自衛隊の派遣を要請してきています。私は、自国のタンカーを守るためとはいえ自衛隊の派遣には反対です。自衛隊が派遣されれば、アメリカ軍と情報共有することになり、結果的にアメリカ軍の指揮命令下に入ります。ホルムズ海峡の目の前はイランです。アメリカとイランは、現在敵対関係にあり一触即発の状態です。万が一、武力衝突すれば、日本の自衛隊が戦争に巻き込まれかねません。

安倍政権下で解釈改憲、安保法制の成立と、なし崩し的に安全保障政策が変えられようとしています。



「労組リーダーセミナー(8/24)」で「政治の大切さ」を訴える

連合鳥取第27回定期大会
日時 11月21日(木)
10時30分開会
場所 倉吉未来中心・小ホール

“ザ・議員”

興治 英夫 鳥取県議会議員

- 昨年度の県議会質問でこんなことを実現。
 - 洪水予防のための河川の樹木伐採・河床掘削予算の増額 平成30年度 956百万円 令和元年度 1,300百万円。
 - 老朽危険空き家除却事業補助金増額 大きな家屋も解体撤去しやすいよう、除却補助金の上限(120万円)をなくし単価設定(26千円/㎡)とし、補助率は除却費の4/5。
 - 自動車税・自動車取得税の障がい者減免制度の改善 生計同一者・常時介護者が運転する自動車について、通院等の回数要件を撤廃し、自動車税45千円、自動車取得税250万円×税率の減免に。
 - 外国人労働者の総合相談窓口の開設 外国人労働者が地域で共生できるよう、東・中・西部3カ所に総合相談センターを開設。
 - 県内企業への就職を促進するため、採用試験を受験する学生の交通費支援 県外学生の交通費を負担する県内企業に、往復交通費を助成。補助率1/2 補助上限一人3万円。
 - 運転免許証自主返納者へのタクシー代等助成への県の支援 今年度モデル的に市町村に補助し、効果検証等を行いながら、来年度からの本格運用につなげる。



中部地協の北条砂丘清掃活動とバーベキューに参加

中田 利幸 米子市議会議員

連合鳥取のみなさまの日頃からの活動に敬意を表します。私は「子どもたちの育成環境」を自身の政策の土台に置き、そのために家族の生活環境はどうあるべきか、経済・雇用環境は、街のつくりは、という組み立てで取組んで参りました。

お陰様で、交通結節点である米子駅とその周辺の再構築やバス路線を中心に公共交通網再編なども動き始め、子育て支援として病後・病後児保育の増設、子育て相談窓口などの施策も進み始め、この間、その実現に理解と協力を頂いた方々に心から感謝する次第です。これからも、理想を掲げるだけでなく、前に進め実現に拘るスタイルで頑張ります。



障がい者雇用の取り組みについて先進地を視察

2012年6月15日、社会保障と税の一体改革関連法案をめぐる修正で合意した消費増税の開始がいよいよ目前となってきた。民主、自民、公明の3党合意に基づき実施されるが、本来は4年前に10%に増税する事が約束されていたものである。この間、二度にわたり延期されたが、懸念されるは8%に増税した時のような消費の落ち込みだろう。政府はリーマンショック級の出来事が起こらない限り、増税の方針に変わりはないといっているから、来月からの実施では間違いないだろう。▼確かに増税は必要と考えるが、今の日本はどうだろう。見せかけだけのアベノミクスに踊らされ、大企業は儲けていても私たちの暮らしは豊かになつたのだろうか。馬鹿げた法案を通し続ける。国を間違った方向に導いている。としか思えない。▼戦艦機的大量購入でトランプの機嫌取りしたかと思えば、戦争で北方領土を取り返すなどと狂った議員まで出てくる始末。これで日本の将来は安泰といえるのか。▼子や孫の世代まで豊かに暮らせる日本にしたい。政治をさせてはならない。

(若様)

たんごんごう

